

修士課程終了後に研究者となる

井上菜穂子（浜松医科大学分子イメージング先端研究センター
分子解剖学研究部門 特任助教）

仕事の内容とやりがい

私は今、浜松医科大学において生体組織を構成する様々な生体分子の解析を行っています。医学部ということもあり、未知の疾患の機能解明など直接人のためになる仕事に携わっています。もともと農学部出身で基礎的な研究にも興味があるので、そちらも並行して行っています。工学部、理学部、農学部、医学部など、様々なバックグラウンドを持つ同僚と一緒に研究をしているので、ひとつの事柄を様々な角度から考察できることが現職の魅力であると考えています。また助教になってからは、教員として学生に教授するという仕事も受け持つことになり、人にものを教えることの難しさ、楽しさなども実感しています。また、働きながら築いてきた業績をもとに、論文博士を取得する事ができ、研究者としての仕事の幅を広げることもできました。

進路決定のきっかけ

同級生のほとんどが大学院進学をせずに就職していたこともあり、私は大学院時代早く社会に出たくて仕方ありませんでした。ですので、大学院修士課程を修了した時点で就職することは決めていました。しかし、社会に出て何をしたいのか、といった目標は不明瞭でした。結果、民間企業への就職活動は尽く失敗に終わりました。そんな中、学生時代にお世話になった独立行政法人の研究所の先生に「うちで働かないか」と声をかけていただき、進路を決定しました。仕事を始めた時点では日々の仕事をこなすことに精一杯で、数年後の自分を想像することも、明確な目標を持つこともありませんでしたが、研究を進めていく上で自分の興味の方向性が定まり、もっと主体的に研究がしてみたい、と考えるようになりました。勤務先は夫の転職によって移らなくてはならなくなりましたが、職場の上司に紹介していただいて、自分のキャリアを生かせる現職に異動しました。そして上司の計らいにより、働きながら博士学位を取得することもできました。

仕事と家庭のバランス

大学院修士課程を修了してすぐに結婚しました。結婚後は夫の転職に合わせて職場を変えなくてはならないということもありましたが、お互い社会人として尊重し合って家事を分担し、生活をしています。自分とは全く異なるフィールドで働く夫には、自分の仕事や職場環境を客観的に話すことにより、自分自身の仕事に対する考えなどを整理することができ、仕事にメリハリができていますと感じています。

進路選択に対してのメッセージ

私は進路選択をするまでが非常に長く、大学を卒業したあとも、自分がどのような社会人になりたいのか、決められずに悩んでいました。しかし、決断しなくてはいけない局面において常に素晴らしい恩師に恵まれ、今自分が納得する進路を選択することができました。これから進路選択をする学生の皆さんには、まず焦らないでほしい、ということ伝えたいと思います。ただ、少しでも自分が興味を持つものがあればあきらめずに探究してほしいということ、先人のいうことに素直に耳を傾けるということ（そのとおりにする、ということではありません）を意識してもらえればと思います。

<井上菜穂子（いのうえなおこ）プロフィール>

茨城県立水戸第二高等学校→筑波大学第二学群生物資源学類→筑波大学大学院バイオシステム研究科（修士課程）→独立行政法人理化学研究所フロンティア研究システム<結婚>
→自然科学研究機構岡崎統合バイオサイエンスセンター<夫、転職>→現職（論文博士取得）